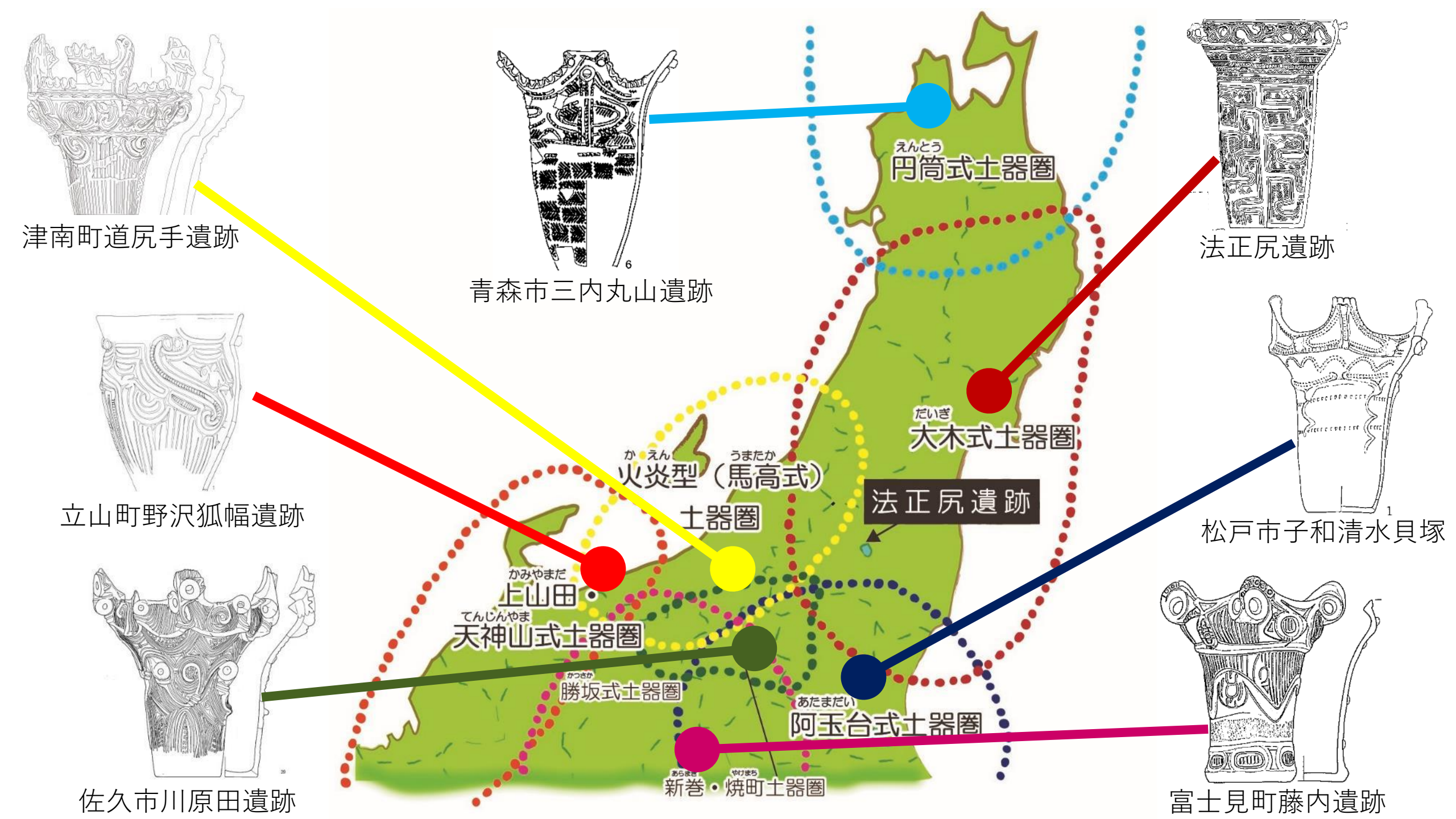
法正尻遺跡の外来系土器

令和３年６月６日（日）

福島県文化財センター白河館学芸課　山元　出

- 縄文土器（じょうもんどき）は、作られた時期（じき）や地方（ちほう）によって、形や模様などが異なる。考古学では、類似する特徴を持った土器を「型式」としてまとめ、「〇〇式土器」と名付けている。

- 大木式土器とは、縄文時代前期から中期（約7000～4400年前）に、東北地方南部を中心に用いられていた土器の型式群。宮城県七ヶ浜町(しちがはままち)の大木囲貝塚（だいぎがこいかいづか）で出土した土器を基に設定され、古い方から順に１～10式に分類されている。


津南町道尻手遺跡
青森市三内丸山遺跡
法正尻遺跡
立山町野沢狐幅遺跡
松戸市子和清水貝塚
佐久市川原田遺跡
富士見町藤内遺跡
円筒式土器圏
大木式土器圏
火炎型（馬高式）土器圏
法正尻遺跡
上山田・天神山式土器圏
勝坂式土器圏
阿玉台式土器圏
新巻・焼町土器圏

法正尻遺跡の時期

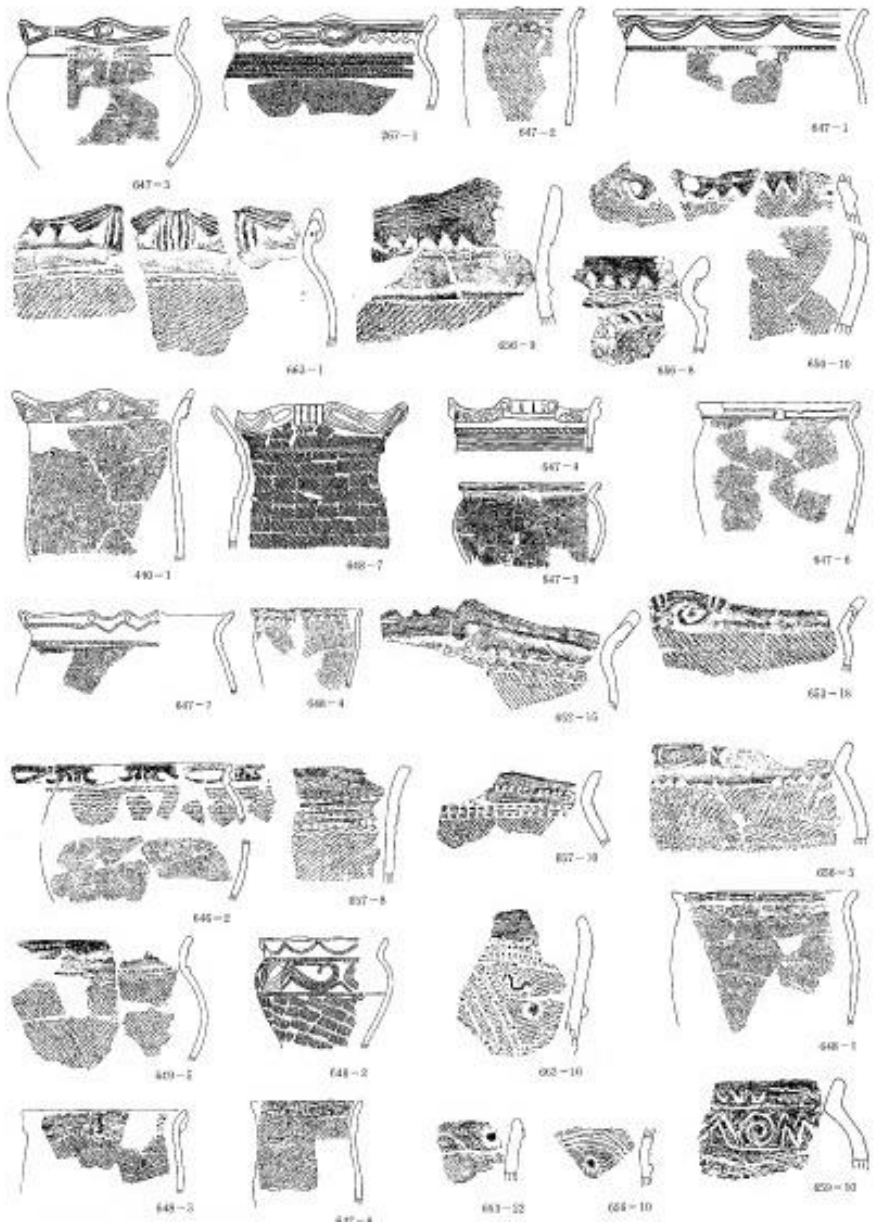
16500　年前	11500　年前	7000　年前	5470　年前	4420　年前	3220　年前　2350
草創期	早期	前期	中期	後期	晩期
		大木1式 大木2a式 大木2b式 大木3式 大木4式 大木5式 大木6式	大木7a式 大木7b式 大木8a式 大木8b式 大木9式 大木10式		

大木６式期（約5,600年前）

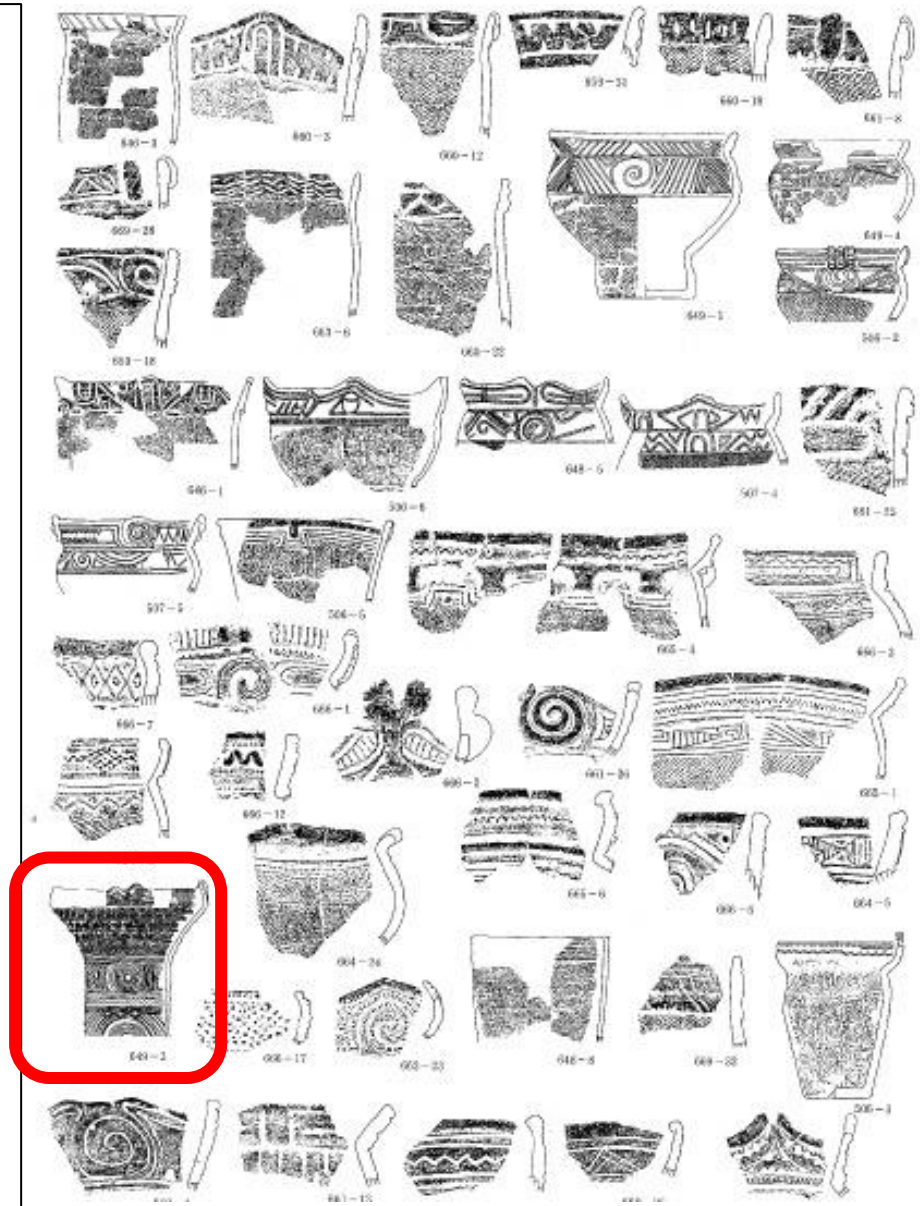
- 地元の土器は、長胴形・球胴形の深鉢が主
- 中部・北陸・関東地方に分布する十三菩提式が出土する
- 大木６式終わりごろの素麺状の粘土紐を用いた文様は、十三菩提式と共通する

大木６式（約5,600年前）

大木6式（1）



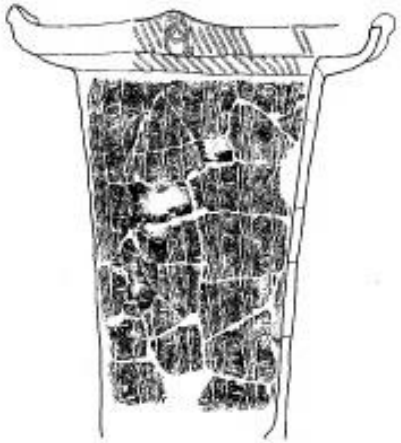
大木6式（2）

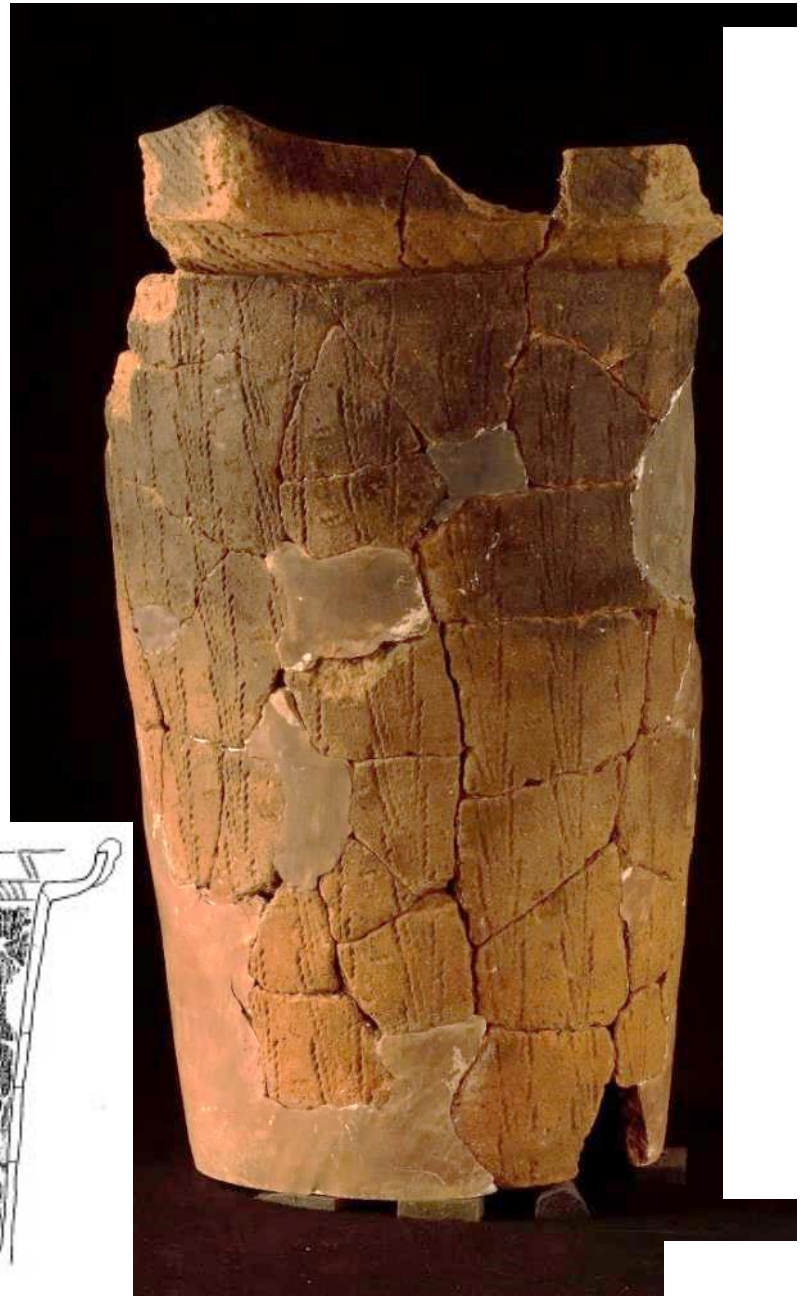


東北横断自動車道遺跡発掘調査報告11下巻図859・860に加筆

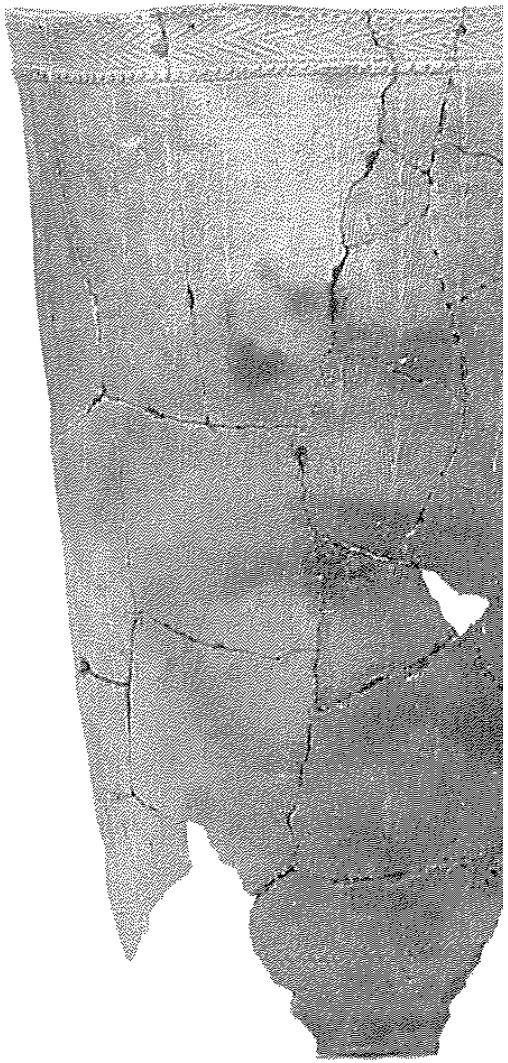
法正尻遺跡遺構外出土

長野県岡谷市大洞遺跡
（長野県教育委員会1987『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書１　岡谷市内』）





法正尻遺跡遺構外出土



青森県八戸市畑内遺跡出土
（青森県教委1996『畑内遺跡Ⅲ』）

石川県能登町町真脇遺跡出土
（能都町教委1986『石川県能都町　真脇遺跡』）

大木７a式期（約5,500年前）

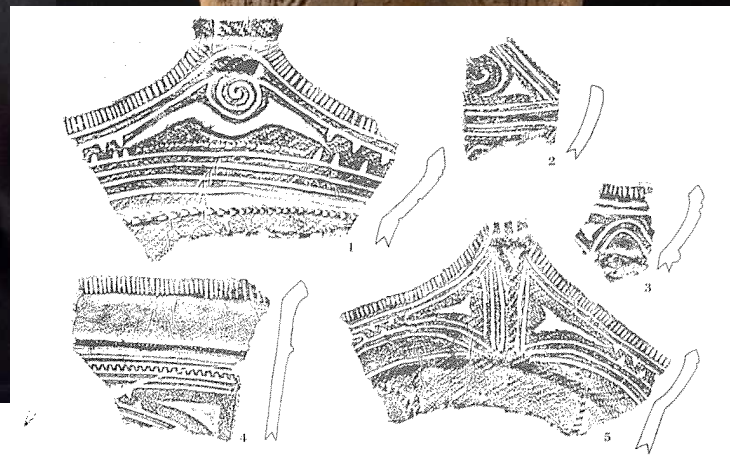
- 地元の土器は、関東地方の五領ヶ台式～阿玉台直前型式と共通したものを含んでいる。特に関東東部の土器と共通性が高い

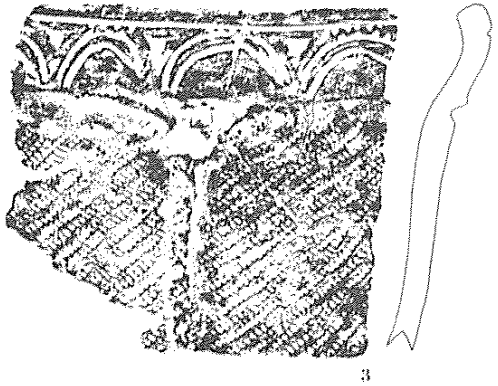
- 北陸の新保・新崎式が破片で出土している

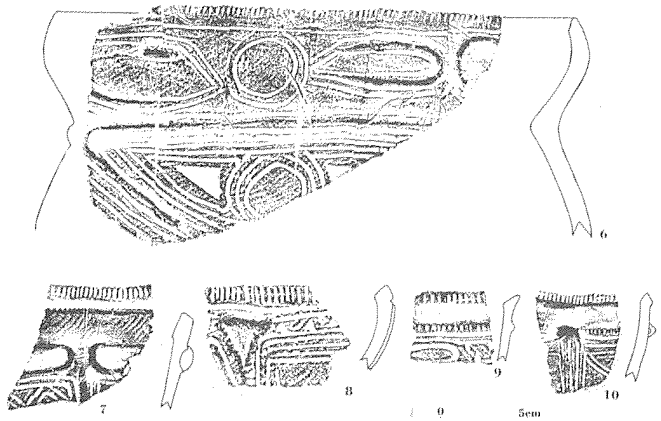
大木７a式（約5,500年前）

法正尻遺

茨城県美浦村陸平貝塚
（美浦村教委2010『茨城県稲敷郡美浦村　陸平貝塚
―調査研究報告書４・1987年度確認調査の成果―』）

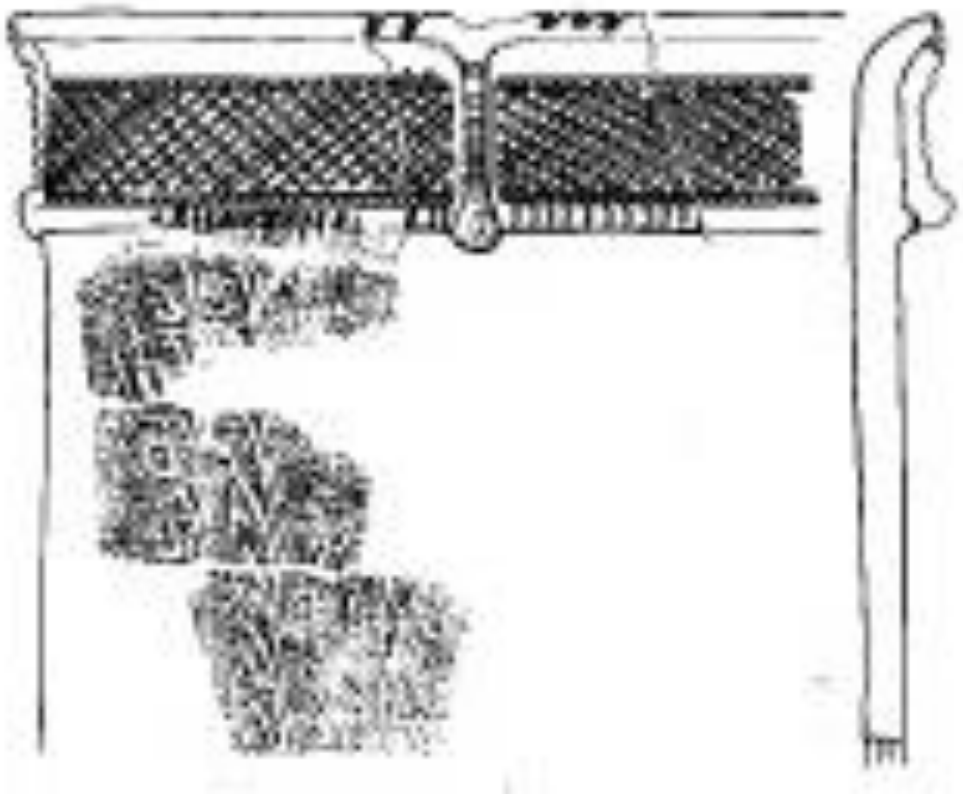






千葉県木之内明神貝塚　　千葉県白井雷貝塚
（西村正衛1984『石器時代における利根川下流域の研究』より転載）

７a式期の北陸系の土器

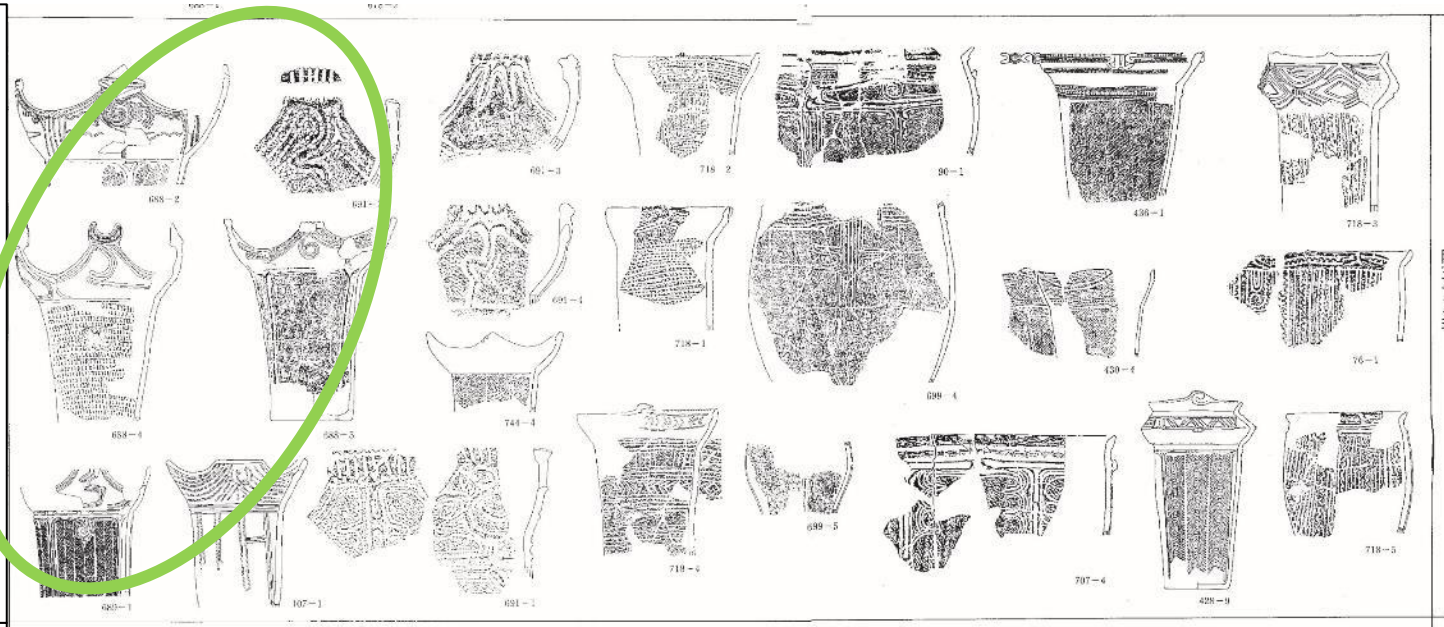


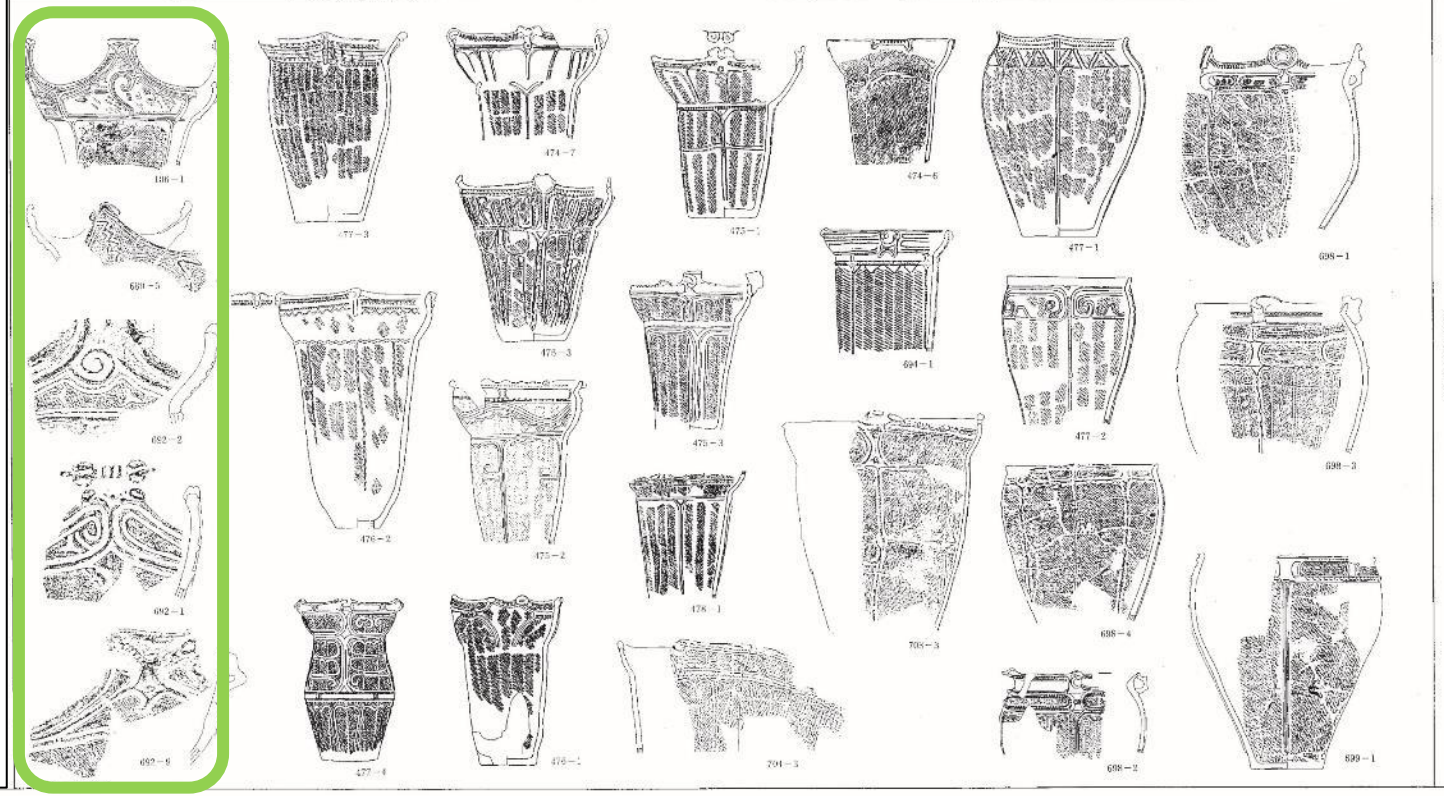
法正尻遺跡遺構外出土

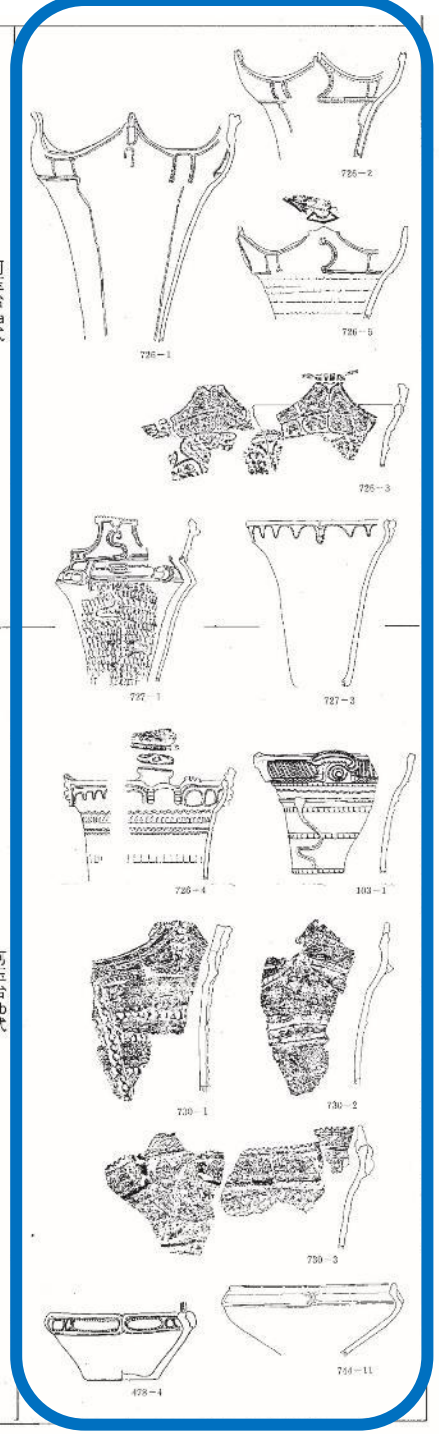
大木７b式期（約5,200年前）

- 楕円形の区画や「Y」形の垂下隆帯などが特徴
- 前半期は関東東部を中心に分布する阿玉台式(Ⅰa～Ⅱ）が伴出し、大木と阿玉台の折衷土器も認められる
- 特に法正尻遺跡では、阿玉台式系の浅鉢を用いている
- 北陸の土器については、前半期は新崎式系の破片が認められるものの数量は多くはない
- 大木８a式との移行期には、火焔型土器に先行するタイプの土器（五丁歩式も含む）が伴う
- 法正尻遺跡では、阿玉台系土器については、Ⅲ式以降は出土しない

大木７ｂ式（１）



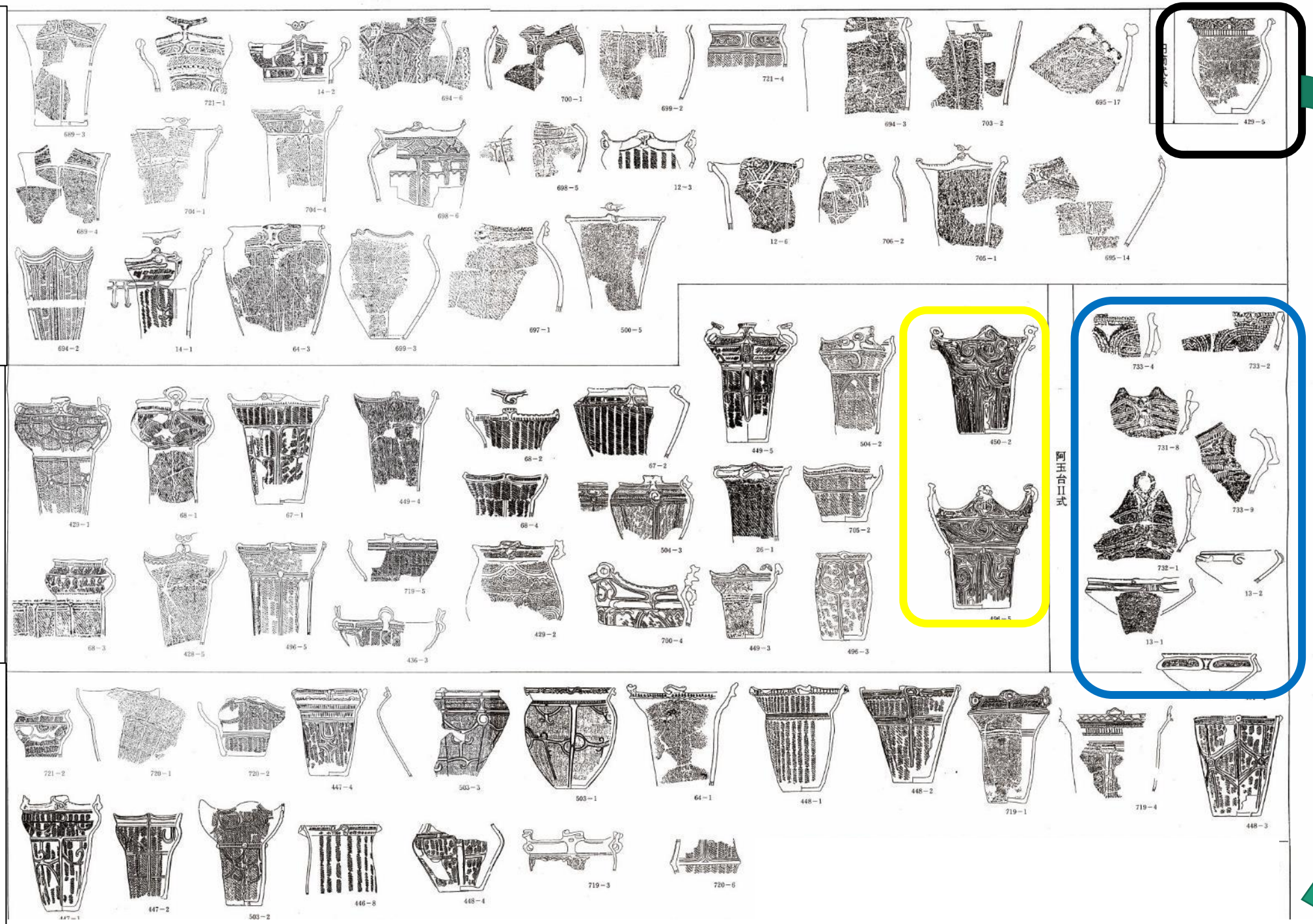




大木7b式（3）

大木7b～8a式（1）

大木7b～8a式（2）



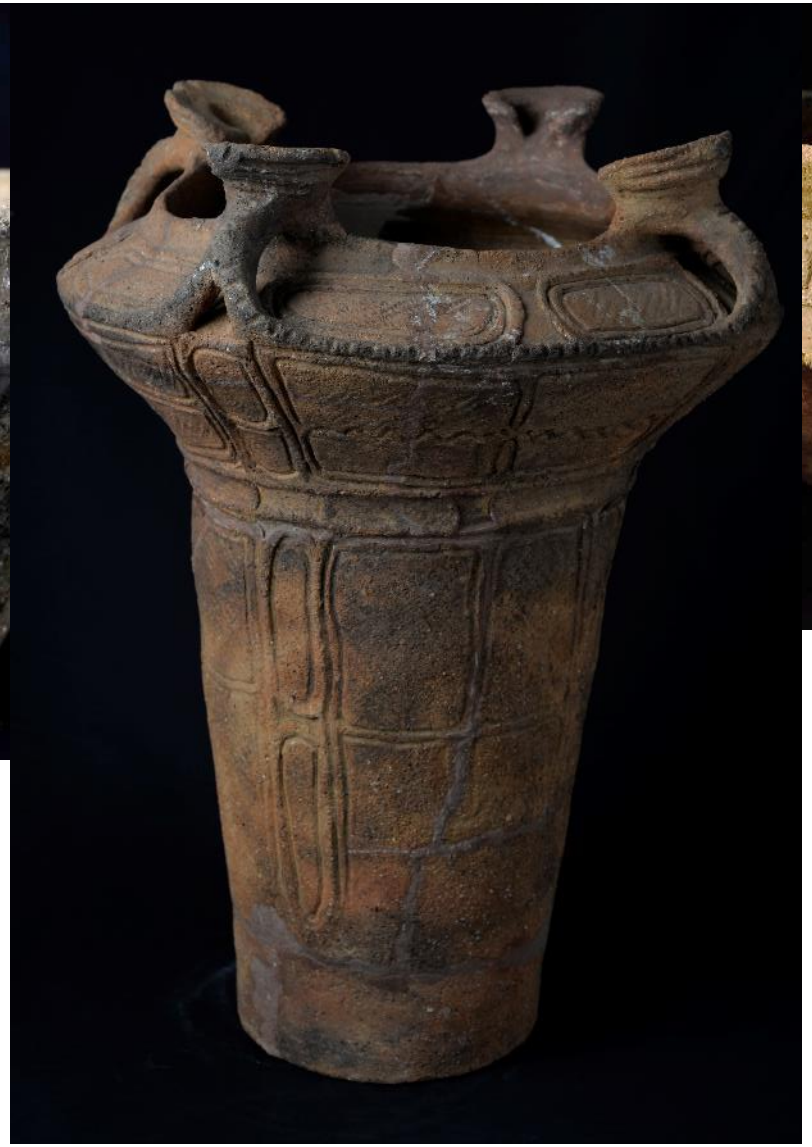
阿玉台式系の土器（約5,200年前）

法正尻遺跡遺構外出土

法正尻遺跡53号住居跡出土

阿玉台式系の浅鉢土器（約5,200年前）

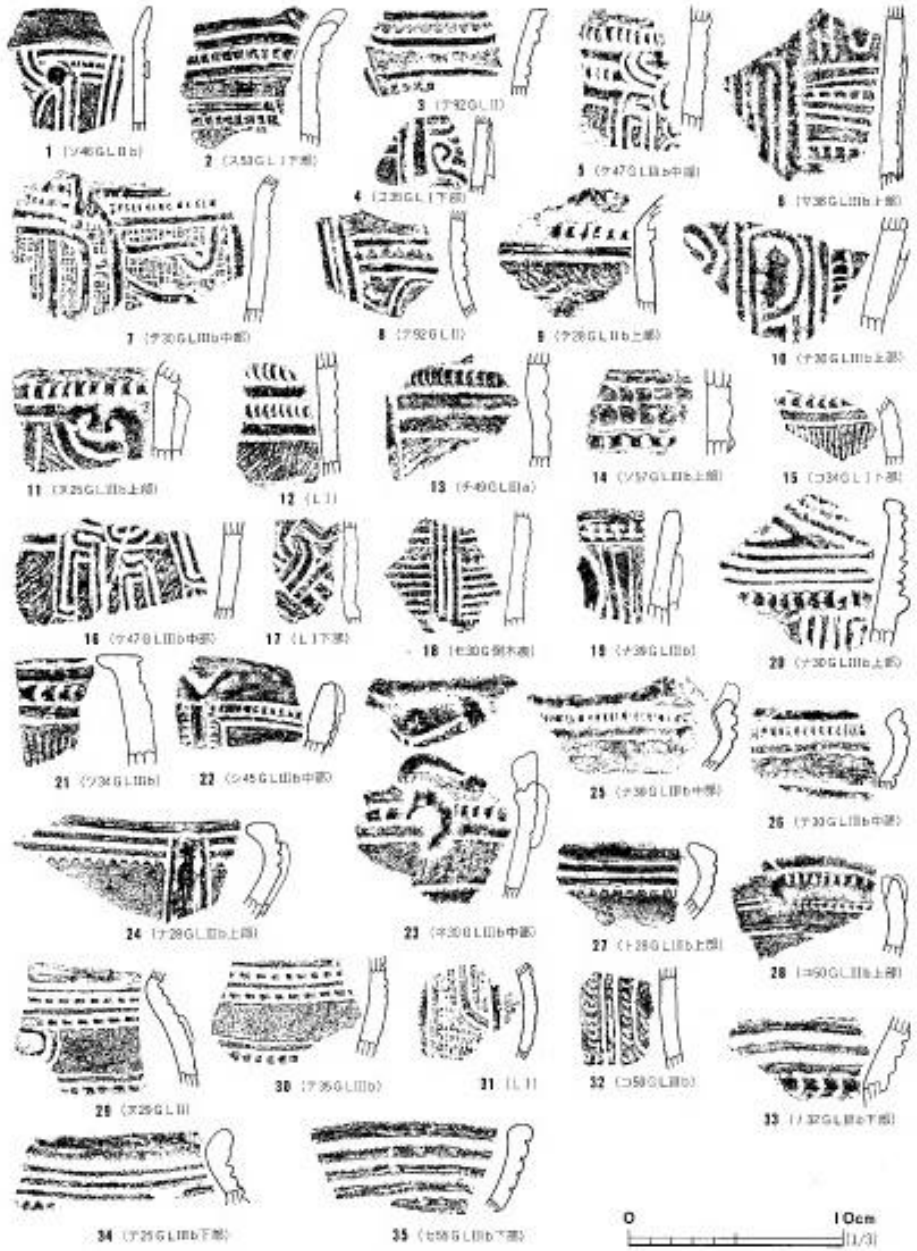
法正尻遺跡415号土坑出土

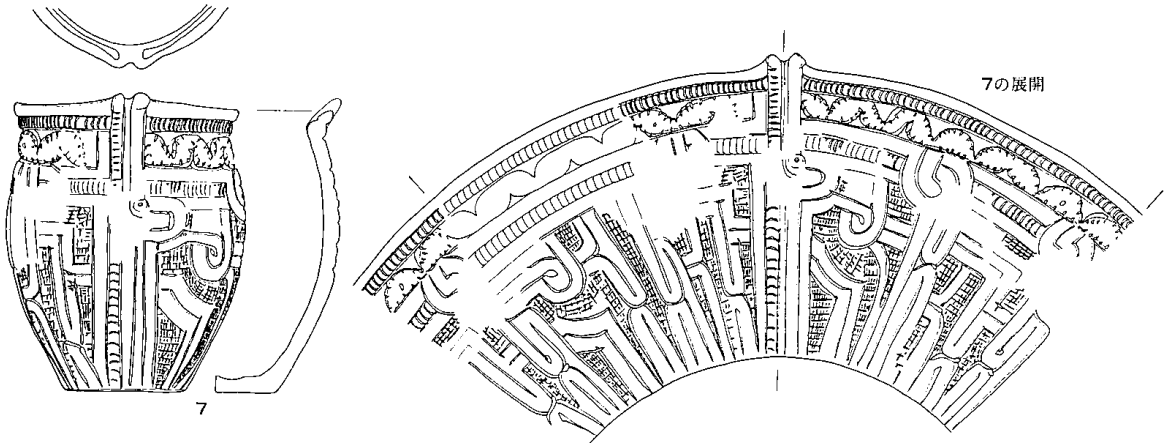


法正尻遺跡327号土坑出土

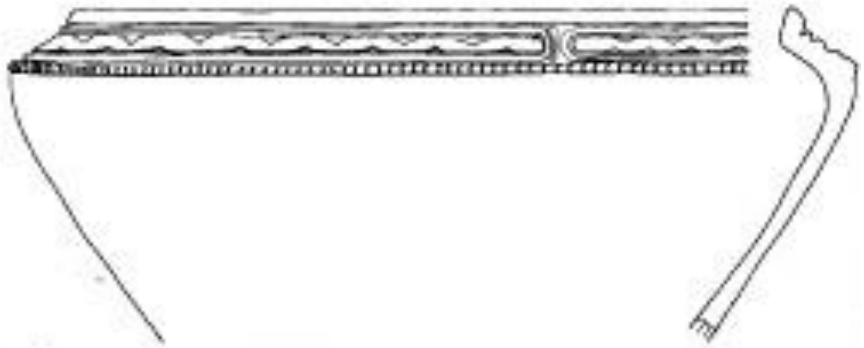
法正尻遺跡327号土坑出土

新崎式系の土器





会津美里町（旧新鶴村）中江聖の宮遺跡出土
（福島県教委1987『国営会津農業水利事業関連遺跡調査報告Ⅴ』）



法正尻遺跡遺構外出土　　上山田・天神山式系か？

火焔型に先行する土器(１)

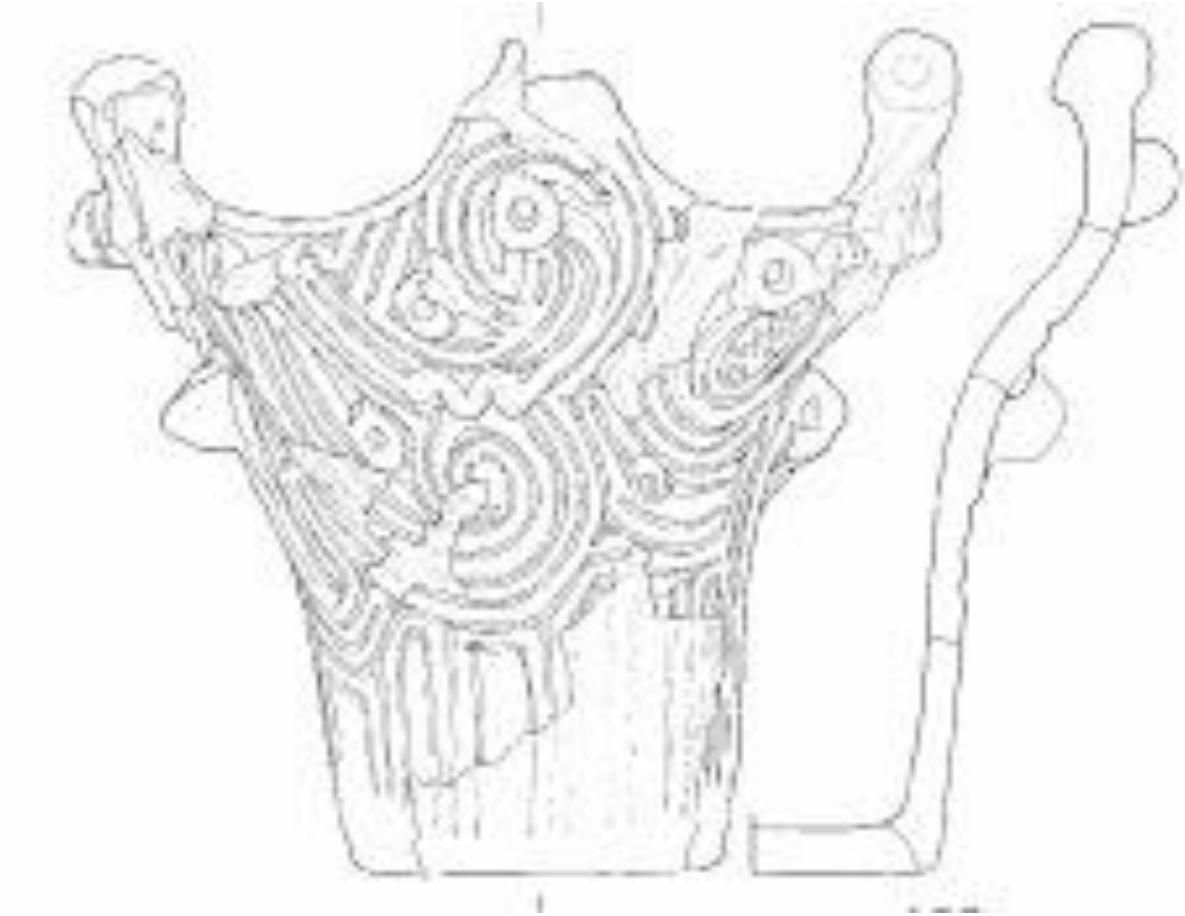
法正尻遺跡566号土坑出土

新潟県糸魚川市六反田南遺跡
（新潟県教委2018『六反田南遺跡Ⅵ』
文様要素の類似

矢羽根状の刻み

火焔型に先行する土器(２)

五丁歩式
新潟県津南町堂平遺跡出土
（津南町教委2011『堂平遺跡』）



大木８a～８b式期（約5,000～4,800年前）

- 口縁に「s」形や渦巻を基調とした立体的な装飾が付く。文様は縄文地上に渦巻やクランクを含む直線などを沈線で描く。
- 新潟の火焔型土器とは、突起の形状などが異なる地元化した「火炎系土器」が伴う
- 火炎系土器は、会津地方にとどまらず、福島県内・栃木県内にも広がりを見せる
- 大木８a式の新しい段階以降には、胴部に地紋縄文を施す土器が出る。

大木8a式（1）

大木8a式（2）

大木8a式（3）

大木8b式

7．火焔型土器と王冠型土器の各部位と名称

津南町教委2018『平成30年秋季企画展　火炎土器の魅力』津南学叢書第34輯

法正尻遺跡365号土坑出土

法正尻遺跡472号土坑出土

法正尻遺跡365号土坑出土

法正尻遺跡404号土坑出土

法正尻遺跡395号土坑出土

まとめ

- 大木6式期（前期末葉）には、すでに北陸系の土器が入っている。
- 大木７a式期（中期初頭）は、東北南部全体で東関東的な土器を使用している。北陸の影響はわずかに見られる
- 大木７b式期（中期前葉）は前半は東関東の阿玉台式が目立つが、８a式との移行期に入って、火焔型土器に先行する土器と共通する土器が見られるようになる
- 大木８a～b式期（中期中葉）は、火炎系土器が伴出する。８b式以降、火焔型土器の衰退に伴い、北陸系の土器はあまり見られなくなる